



June 2011

発行者：公益財団法人かなえ医薬振興財団

協賛：サノフィ・アベンティス株式会社

平成23年度・第40回 かなえ医薬振興財団 助成金公募を開始しました！

「かなえ医薬振興財団」は今年4月公益財団法人として新たにスタートし、研究助成金及び海外留学助成金の公募を開始しました。さらに、今年度より新たにアジア・オセアニア交流研究助成金の交付を45歳以下の日本人研究者を対象に行います。また、今年は記念すべき40回目を迎え5年毎に行っている助成金贈呈記念式典の開催年であり、平成24年2月29日に東京にて開催を予定しております。

募集期間：平成23年6月1日～7月31日（必着締切）

助成種類：①研究助成金 総額4,300万円（100～200万円/件）

②海外留学助成金 総額1,800万円（120万円/件）

③アジア・オセアニア交流研究助成金 総額1,000万円（200万円/件）

①研究助成金及び②海外留学助成金：

応募資格：40歳以下（海外留学助成は35歳以下）の生命科学分野の研究者

対象領域：研究助成金／海外留学助成金とも、臨床医学1～4、及び基礎医学1～2の全6領域。

■臨床医学1；神経／脳 ■臨床医学2；循環器

■臨床医学3；消化器／代謝 ■臨床医学4；呼吸器／免疫・アレルギー／血液／その他

■基礎医学1；癌／免疫／ゲノム／感染 ■基礎医学2；神経／薬理／薬物動態／その他

③アジア・オセアニア交流研究助成金：

応募資格：45歳以下の生命科学分野の日本人研究者

対象領域：老年医学／再生医学／感染症／疫学／医療機器／漢方／その他

詳しい情報は財団ホームページをご覧ください。申請書等がダウンロード出来ます。

→ URL：<http://www.kanae-zaidan.com/>

◆財団 新理事長よりご挨拶



新理事長 田原 一（サノフィ・アベンティス株式会社 常務執行役員）

前理事長でありましたパトリック・ショカの後任として平成22年10月より就任させて頂いております。

かなえ医薬振興財団は1970年に設立され、当財団の理事・評議員には医学・薬学分野の著名な指導者を代々お迎えすることができ、医学に対する社会的貢献の灯を絶やすことなく継続発展し、医療の向上に貢献し続けることができましたことは大いなる喜びでございます。

2011年4月からは公益財団法人として内閣府より認定され、新たなスタートができました。今年度で40回を迎え、今までの研究助成、留学助成に加えてアジア・オセアニア交流研究助成も行います。欧米とは異なる文化や思想と交わることにより生命科学分野の斬新な研究の推進に貢献できるものと考えております。島田 秀孝（サノフィ・アベンティス株）を新専務理事に迎え、この伝統ある「かなえ医薬振興財団」の発展・維持に尽くす所存でございます。今後とも皆様方のご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

◆財団 理事からのメッセージ



臨床研究の復活に期待する

かなえ医薬振興財団 理事 松澤 佑次 (財団法人住友病院 病院長)

臨床医学の研究の醍醐味は症例や疾患の分析から生じた疑問を、最先端の基礎医学手法を駆使して解決し、新しい治療法や診断法を生み出すことにある。しかし最近の風潮をみると、臨床講座の研究でも、基礎講座と区別のつかない研究が主流を占め、新しい病態の発見や病気のメカニズムの解明など臨床系の一流ジャーナルに掲載されるような研究が顕著に減少している。一方では医学研究の目的でもある、治療薬開発が、最近では病気から始まるのではなく、ゲノムや新規たんぱくの網羅的な同定を基に薬になる候補を選択していき、最終的に疾患が選ばれるという、「必要は発明の母」という観点からは、逆の流れが主流を占めている。この過程では臨床医学者は候補薬の人への応用のときに初めて必要とされ、その応用過程、いわゆるトランスレーショナルリサーチを「臨床研究」と呼ばれるように、臨床研究という言葉そのものも矮小化して使われている。その背景には、研究費の採択や教授などのポジションの選考のための業績評価が、インパクトファクターの高い基礎ジャーナルに掲載された論文の数などによってなされる傾向が強いことがあり、その結果、臨床講座であっても時間や人員の必要な患者研究、疾患研究に時間を割く余裕がなくなっているのではないかと懸念されている。しかし臨床研究の質が落ちると新しい分子が多数発見されても、画期的な治療薬が生まれにくいことは、ノーベル賞学者の Goldstein 博士が 1996 年 JCI の巻頭言で述べたとおりである。いきなり頂上近くへヘリコプターで降りてくる研究ではなく、すそ野から徒歩で登っていくという研究は、時間がかかるが達成感があり、結果的にスタチンのような効率のよい治療薬が生まれる確率が高い。当財団がこのような視点で臨床研究の支援を強化してくれることを願っている。

◆歴代受賞者からのメッセージ



第 30 回 (平成 13 年度) 研究助成金受賞者

醍醐 弥太郎 (滋賀医科大学医学部腫瘍内科 教授)

大学院および英国留学時代は、東京大学医科学研究所および英国ケンブリッジ大学腫瘍学講座において、分子腫瘍学・遺伝医学・ゲノム医学研究に従事し、各種の難治性腫瘍のがん抑制遺伝子を複数同定して、ウイルスベクターによるがん遺伝子治療の可能性を検討しておりました。また、ケンブリッジ大学医学部附属病院において、当時、日本では黎明期であった臨床腫瘍医(腫瘍内科医)を中心とする集学的がんチーム医療やトランスレーショナルリサーチに従事して、その実践的手法を修得しました。その後、東京大学医科学研究所と滋賀医科大学医学部腫瘍内科において、ゲノムワイドな遺伝子発現解析技術と血清タンパク質上の糖鎖構造変化を網羅的・定量的に同定する質量分析システムを独自に構築して各種のがん組織と血清試料の体系的解析を行い、がんの発生・進展のメカニズムの解明に取り組むとともに、同定した新規のがん関連分子群をバイオマーカーや治療標的とする統合的ながん病態診断システムの構築と分子療法、がんワクチン療法の開発を進め、その一部は臨床試験に移行しています。腫瘍内科医として、がんに対する最新の標準薬物療法と緩和ケアを基本に、がんの個別化医療と新しい治療法の開発・展開による、「希望の切れ目のない総合的ながん医療の実践と開発」に取り組む日々ですが、「かなえ医薬振興財団」には、研究の立ち上げ期に、多大なご支援をいただきました。最後に、「かなえ医薬振興財団」に改めて深謝申し上げるとともに、益々のご発展を祈念申し上げます。



第32回（平成15年度）研究助成金受賞者

高嶋 博（鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経内科・老年病学 教授）

かなえニューズレターに寄稿するようにとのことではありますが、これまでの受賞者の先生方を考えますと私でいいのかとも思いましたが、受賞者の責務として一筆とらせていただきます。私は、平成22年1月から出身の鹿児島大学神経内科・老年病学（旧第三内科）の教授に就任いたしました。多くの面で業績を残された井形昭弘先生、納光弘先生の後任ということで、私は、プレッシャーの中職責を全うすべく、現在教育、診療、研究に全力投球という状況です。私の研究は、自分が若い頃に勤めた筋ジストロフィー病棟の方々の病気が遺伝的な原因に由来していたため、その研究をするために人類遺伝学的手法を学び、疾患の原因を同定し、病態を解析する仕事をしてきました。私自身もいくつかの疾患の原因を発見することができ、現在は研究を加速させるため次世代ゲノムシーケンサーを導入して、継続して様々な脳・神経・筋疾患の研究に取り組んでいます。今後も遺伝性疾患の原因としては多くがわかっていくと思いますが、その後の研究、特に実際の治療に向かった研究の難易度は高く、私もトライしますが、若い先生方にはそのあたりのブレイクスルーを期待しています。

かなえ医薬振興財団の助成は、当時の私にはありがたく、とても思い出深く親しみのあるものであります。それ故、今後とも継続して、若い先生方を鼓舞し、サポートする役割をお願いできればと思っております。



◆海外留学レポート

第33回（平成16年度）海外留学助成金受賞者

小林 千浩（神戸大学大学院医学研究科 神経内科 / 分子脳科学 准教授）

留 学 先：Wellcome Trust Centre for Human Genetics, University of Oxford

研究課題：The Genetics of Autism（自閉症の遺伝学）

私は、約2年という短い期間でしたが、英国オックスフォード大学 Anthony Monaco 教授のもとで、自閉症とディスレキシアに関する分子遺伝学的な研究を行ってきました。当時は1ポンド200円の時代で生活が厳しかったのですが、貴財団からの海外留学助成を頂き、オックスフォードでのレベルの高い研究に集中することができました。オックスフォードは、夢見る尖塔の街と呼ばれる最古の大学都市で、ゴシック建築の壮麗な大学の建物が立ち並ぶ街の雰囲気は、美しい中にも長い歴史を感じさせ、多くの歴史的著名人を輩出した世界最高学府としての風格と威厳があります。私が所属したセンターは、街の中心部から東にあるヘディントンという閑静な住宅街にあります。センターには様々な分野の多くの研究グループがあり、集まる研究者はヨーロッパを中心とする多国籍で、ディスカッション時にはいろいろな訛りの英語が和気あいあいと飛び交います。そんな中で、相互に密接な共同研究関係を上手に利用しながら、世界的にもレベルの高い研究を行い、多くの業績を出しております。私もその横のつながりを利用することで、より充実した研究を行うことができました。この大変貴重な経験は、現在の私の研究スタイルの基礎となっております。末筆になりましたが、御陰をもちまして金銭面での不安もなく研究に集中できました。貴財団に厚く御礼を申し上げますとともに、益々の御発展を御祈り申し上げます。



◆平成 22 年度 事業報告

〈研究助成事業〉

平成 22 年度 第 39 回の助成事業は、6 月より公募を開始し 7 月 31 日をもって締切り、研究助成金 552 件、海外留学助成金 156 件の応募がありました。10 月 6 日の選考委員会で厳正な選考が行われ、理事会の承認を受け平成 22 年度の研究助成及び海外留学助成が決定されました。研究助成金は、1 件あたり 100 万円又は 200 万円で計 40 名に総計 4,300 万円が贈呈されました。また、海外留学助成金は 1 件あたり 120 万円 で計 16 名に総計 1,920 万円が贈呈されました。

〈業績集の発刊〉

平成 20 年度 第 37 回の研究助成金受賞者の研究報告書を纏めた「受賞者研究業績集 第 37 集」を 9 月に発刊いたしました。該当の先生方にはご多忙のところ、貴重な時間を割いてご協力いただき深く感謝申し上げます。

■収支決算報告

正味財産増減計算書

平成 22 年 4 月 1 日～平成 23 年 3 月 31 日

(単位：円)

科目	金額
・経常増減の部	
基本財産受取利息	300,000
特定資産受取利息	68,000
受取寄付金	68,000,000
雑収入	21,072
経常収益計	68,389,072
・経常費用	
事業費・研究助成金	43,000,000
・海外留学助成金	19,200,000
・その他	4,818,763
管理費	5,976,063
経常費用計	72,994,826
経常外費用計	0
当期経常増減額	-4,605,754
一般正味財産期首残高	40,153,150
一般正味財産期末残高	35,547,396
指定正味財産期末残高	120,000,000
正味財産期末残高	155,547,396

貸借対照表

平成 23 年 3 月 31 日現在

(単位：円)

科目	金額
・資産の部	
流動資産	1,547,396
固定資産	154,000,000
資産合計	155,547,396
・負債の部	
流動負債	0
固定負債	0
負債合計	0
・正味財産の部	
指定正味財産	120,000,000
(うち基本財産への充当額)	(120,000,000)
一般正味財産	35,547,396
(うち特定財産への充当額)	(34,000,000)
正味財産合計	155,547,396
負債及び正味財産合計	155,547,396

発行

公益財団法人かなえ医薬振興財団 事務局

〒163-1488

東京都新宿区西新宿 3-20-2 サノフィ・アベンティス (株) 内

Tel : 03-6301-3090 FAX : 03-6301-3094

E-mail : kanae.zaidan@sanofi-aventis.com

URL : <http://www.kanae-zaidan.com/>

■ご協力をお願いします

このニュースレターは歴代受賞者及び応募関連領域の先生方宛を中心に約 2500 部発行しております。もし、送付先に変更がありましたら、登録情報を更新させていただきます。お手数ですが email 等でご連絡いただきますようお願い申し上げます。